

学生処分バラバラ東京教育大

文学部はおあずけ

移転賛成の理学部は発効

学園の施設移転、機動隊導入、授業時間短縮など、ことごとく対立している東京教育大の文学部と理学部が、学生処分について全く別々の方針を決めている。同じキャンパスにありながら、まもなくの決定は授業再開に伴う学生の入籍許可措置についても教育学部と理学部が、食い違った決定を十二日行っており、学生の不信感をさらに増やしている。

関係者の話を総合すると、文学部の学生処分は昨年六月行われた学長選のさいに会議に導入、実行で防衛しようとした行方と、その直後の七月上旬、教育学部評議員会をかねて行われた同交を中心とした、教授会から分たをあげられた文学部学生委員が検討した。その結果、処分内容、氏名は公表しなかったが、一連の

行動を指揮した学生八人の無期停学処分について意見が一致していただいられる。

しかし、当の学生委員は、その後紛争が拡大したこともあり「まだ、処分の時期ではない」と検討を遅けたまま三月末、任期切れで交代、調査経過、学生名などの資料は、そっくり新委員に引きついで、ところが、新委員も紛争が現在なお流動的である、教授会から検討を依頼されたのは旧学生委員である—などの理由から、現時点ではこの問題にふれることを選んでいる。こうした新旧学生委員の意向から、結局この処分は、不発に終わりをした。

一方「教育排除によって教授の学園、研究を妨げた」として正副委員長の処分を決定「処分の発効は、教育学部との関連において慎重に」として、移転反対派の文学部と賛成派の理学部との対立が、同じ学生処分についても差を引いているわけで、処分は学生にとりて大きな問題であるだけに、学生側の不信はさらに強まりそうである。

入籍許可の方
法もさびさび

一方入籍問題について教育学部は、土曜日の教授会で、二十四年生五百人に対し特別身分証明書を発給、十五日から授業を再開することを決めた。特別証明書は学

部長の検印があるだけの簡単なものを、全学生に郵送し、特別証明書を検印員に提示すれば、入籍できる。ところが理学部は先月八日「学園に預けます」と学生、保証人が賛同した者へ限り通行証を発行、入籍を許可しており、同じ大塚キャンパスにありながら、学部間の入籍基準方法は全く違ったものとなった。

朝刊ヨミウリ
5/13

図書館使用も差別

東教大の対立エスカレート

移転反対派をしめ出し

東京教育大付属図書館が、学生ととら、検印員から「中補助教授入館のさいに必要な教官の認印を区別、移転賛成派教官のハンコがけを認めるという片手落ちの事実が、二十八日の文学部教授会で明らかとなった。同大学は移転賛成、反対両派が真っ二つに割れているが、大学側が両派教官を、公的に区別したのは初めて。事態を重視した文学部は、あす三十日の評議員会で大学側を追及することになった。

関係者の話によると、今日はじめ、文学部英文科の大学院生が正門で検印中の検印員に、図書館中尾俊夫助教(英文学)の認印がある図書館入館印を提示したところ、検印員から「中補助教授は検印に参加してないので、入館は認められない」といわれた。これについて図書館長の橋井忠夫教授は二十八日の教授会で「検印に参加している教官と参加していない教官の認印は区別しているが、大学側が両派教官を、公的に区別したのは初めて。事態を重視した文学部は、あす三十日の評議員会で大学側を追及することになった。

文学部は現在、大学側の機動隊導入、ロッカアウトなどに反対しているが「教育のハンコを差別することは学園の自由を妨げることになりかねない」と、大学側の措置を非難している。

これに対し大学側は「検印にも

朝刊ヨミウリ
5/29